さかさで寝ているので、物干しラックから目の前に白黒サテン生地の手拭と萌黄色のブラジャーがぶらさがっているのを見ながら寝ることになり、北枕だと思う

お昼になったら、クーラーの風がよく当たる部屋の隅っこに座って本を読もうと思う

もういつそ一緒に住んじゃう？ と冗談で言ったら、家賃半分払ってくれるならわるくないね、と意外に言われたことがあって

二・五万円ぐらいかなあ、さすがに簡単には出せないなあ、と予想していたら一万四千円だそうで

この値段で飼えちゃうのも飼われちゃうのもなんか、お互いさすがにやばいね、ってなって

なんとなくうやむやになる

雨音を怖がって耳を塞いで縮こまっているミヤザキさんの頭を撫でながらここはなんでこんなに寝れるんだろう、と訊くと、わたしがいるからじゃない、と言う

外は大雨、イマジナリー・グリーンハイツ・井田

外に出れない雨なので結局おひるのあいだはずっと寝ている

ミヤザキさんの冷えた身体におおいかぶさると、大型犬みたいだねと言うさすがに女もののシャンプーすぎる、と笑いながら頭を撫でてくれる

ミヤザキさんは小さな鏡を見ながら器用に前髪を自分で切り揃えてしまういきなり短く切ったのに驚いた半年前から色落ちがして茶色になった髪は今でもゴムを外すとよく結べていたなあってくらい短いことを知っている魚定食の食べ方がへたくそで、純喫茶のピザトーストが好きなことも知っている

針を刺したら風船みたいにぱちんと割れてしまいそうな鮮やかな胸の張りとおへそを覗き込んだらけっこう暗闇だったので顔をうずめてそっとぼくはミヤザキさんの形を認識する